

台風 21 号と夢洲

写真はカジノ問題を考える大阪ネットワーク編『それでもやるの？大阪カジノ万博』2017年の表紙。「カジノ万博」と夢洲開発の危険性を考えるうえで示唆に富む。写真の夢洲が台風21号により大きな被害を受けた。

関西空港ばかりが注目されるが、この夢洲で「カジノ万博」が計画されているのだ。フェイスブック投稿では、被災が写真付きで紹介されているが、新聞報道はほとんどない。そんな中で、大阪日日新聞9月14日1面「潮騒」で夢洲が取りあげられていた。



先週の台風21号による高潮時の高波被害による関西空港水没で「2025年大阪万博予定地の夢洲は、高潮や津波の対策は十分なのか？」という不安がふと頭をよぎった。◆府・市は、各方面からの指摘に対し「IRや万博の誘致が決定していない時点では、かさ上げの高さも未定で試算する状況にない」と論点そらしに懸命だ。少なくとも関空を襲った高波3.29mと同程度の状況下の被災で「想定外」とだけは言えまい◆大阪の住人でも、夢洲はおろか野球場のある舞洲まで行ったことのある人は限られている。それよりはるかに東側内陸部にある南港こと咲洲ですら今回、駐車場の車が吹き寄せられ多数大破した映像は衝撃的だった。◆夢洲や舞洲は台風被害がなかったのではなく、単純に人や施設が少なかつただけに過ぎない。もし本番で同様の事が起こったら、関空同様に橋1本で隣地とつながっているだけの2島での大混乱ぶりは想像を絶する。◆大阪には、1970年に大阪万博を成功させた吹田市の万博公園や、90年に花博開催後公園整備された鶴見緑地など別の場所に万博開催適地はいくらでもある。今後少子高齢化に向かう大阪府で、リスクを負って極めて不便で危険な埋め立て人工島の「負の遺産」を再開発する必要はない。この際、思い切って捨てる勇気も必要だ。

災害面から、夢洲での「カジノ万博」開催に警鐘を鳴らす。大阪日日新聞は新日本海新聞社大阪本社発行とある。これまで注目してなかったが、NHKで森友疑惑の取材報道に携わってきた相沢冬樹さんが、NHKを退職して大阪日日新聞の論説委員・記者となってから図書館でチェックするようになった。写真は9月6日1面掲載の相沢さん「野分 大阪発・論点」である。

大阪のマスコミは、「カジノ万博」などの追及が弱いので、大阪日日新聞の鋭い切り込みに期待していきたい。



(2018年9月25日)